

# ☆阿南商工会議所の皆様と治水・防災講座☆ 「那賀川の治水と利水について」

那賀川河川事務所では「阿南商工会議所・防災委員会」の来訪を受け、7月7日(木)に「那賀川の治水と利水について」出前講座を実施しました。

**那賀川の河道の変遷と治水対策の歴史**

**戦前の治水対策**

- ◆大正元年や大正7年洪水などを受けて、大正10年、直轄改修すべき河川として那賀川が挙げられる
- ◆昭和4年に国の直轄事業として着手、内務省神戸土木出張所は「那賀川改修事務所」を開設、昭和7年から改修工事を開始

- 1 那賀川橋付近の右岸側の引堤
- 2 ガマン堰と岡川合流地点の締め切り(本川・岡川・桑野川の分離)
- 3 斉藤島の撤去

図面 平越川管部  
一にその位置

那賀川河川事務所(大正10年)

新設橋梁

ガマン堰平越部

那賀川橋付近の新旧堤防と新設橋梁

斉藤島の撤去・浚渫工事状況



最初に那賀川流域の地形や気象について説明。那賀川は急流な上に流域に雨が多く、また台風の通り道であることなどを改めて納得されたよう。また、鎌倉時代からの河道の変遷や、戦前からの治水対策など歴史についても勉強いただきました。



**ダムによる洪水調節**

**長安口ダム改修事業の概要**

**長安口ダム改修事業の洪水調節効果**

- ◆洪水前  
「予備放流」により洪水調節容量を確保します。  
【洪水調節容量1,086万m<sup>3</sup>、洪水調節開始水位219.7m】
- ◆ゲート改修後  
【洪水調節容量1,200万m<sup>3</sup>、洪水調節開始水位218.7m】
- ◆洪水調節  
「低水位」により、低水位部(218.7m)の洪水調節能力が向上しており、洪水調節には3,600m<sup>3</sup>/sから洪水調節開始水位218.7m以上、必要以上の洪水をダムにためるような貯水池運用が行えます。
- ◆洪水ピーク時  
「野水位」の上昇が抑えられ、ダム容量が満杯となり、所定量の放流を必要に応じて流量を調整し、下流水位の低減が期待できません。
- ◆洪水ピーク時  
「ゲート」を全開にして、洪水調節容量を確保します。  
【洪水調節容量1,200万m<sup>3</sup>、洪水調節開始水位218.7m】
- ◆洪水調節  
「高水位」により、高水位部(218.7m)の洪水調節能力が向上しており、洪水調節には3,600m<sup>3</sup>/sから洪水調節開始水位218.7m以上、必要以上の洪水をダムにためるような貯水池運用が行えます。
- ◆洪水ピーク時  
「ゲート」を全開にして、洪水調節容量を確保します。  
【洪水調節容量1,200万m<sup>3</sup>、洪水調節開始水位218.7m】

次は、近年多発している洪水被害や長安口ダムの運用方法、現在事務所が進めている治水対策、更には利水の問題点など盛り沢山の内容でしたが、皆さんメモを取りながら熱心に聞いておられました。



最後に、質疑応答。堤防の整備や河道の掘削など、具体策に及ぶご質問に、当方も一生懸命回答。質疑応答の後は、場所を変えて「災害対策室」を見学。滅多に目にすることのない、洪水対応などの司令室の様子に皆さん興味が尽きぬ様子。本日の講座が、商工会議所の皆様の防災活動の一助となることを願いながらお見送りしました。